

# 現代用語

# の

創刊40周年版

時代の鼓動を反射する  
新語外来語の宇宙

# 基礎知識

1988

別冊付録

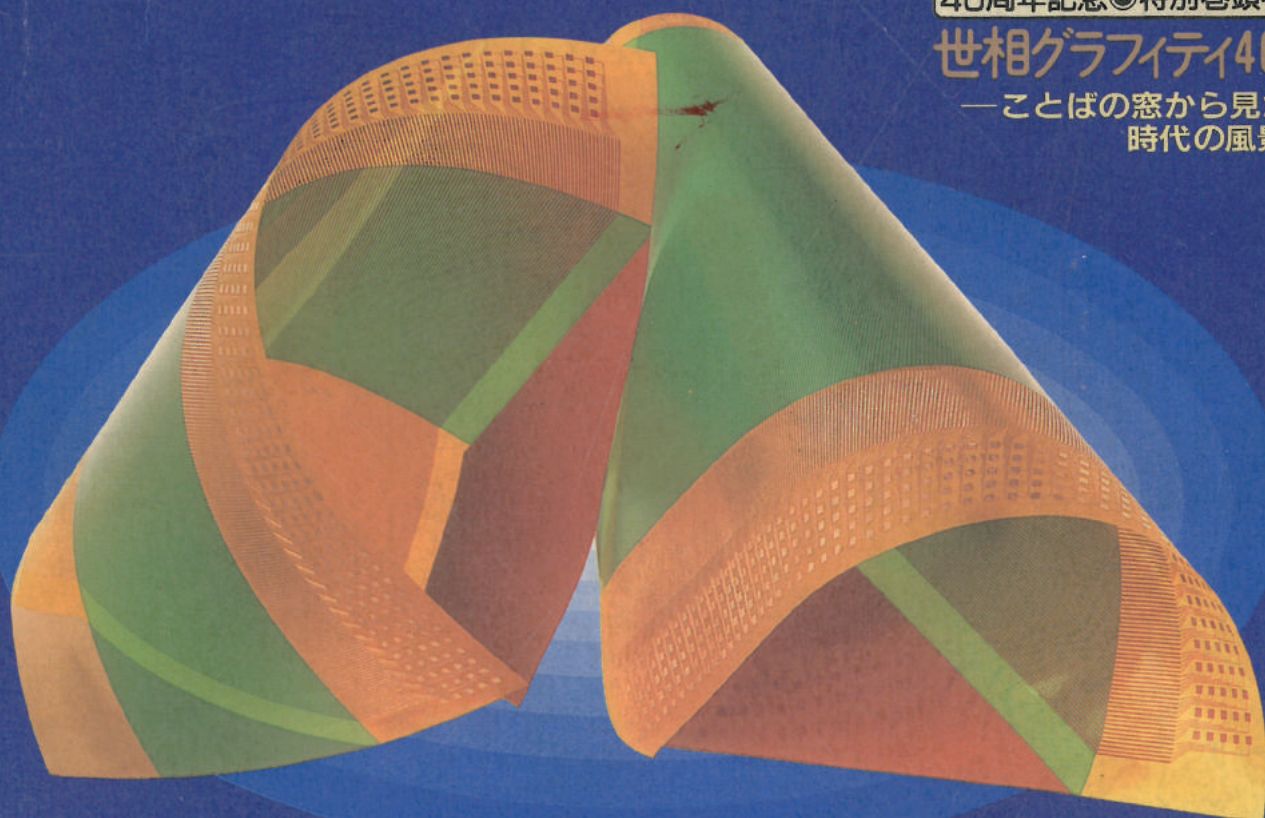
ふるさとの時事問題

都道府県・最新データブック

40周年記念●特別巻頭特集

世相グラフィティ40年

—ことばの窓から見た  
時代の風景—



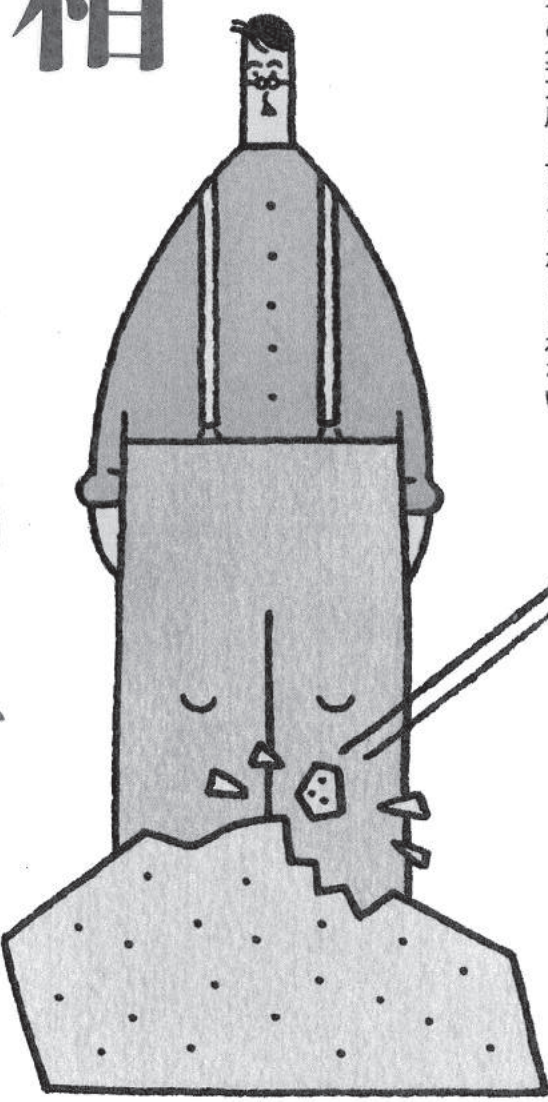
自由国民社

# 【創刊40周年記念】特集

ことばほど、とくに流行語ほど、その大きさを捉えることが難しいものはないだろう。つまり、その流行語をどの程度自分のものにするかによって、その大きさが決まってくるからである。自分の大きさと等身大くらいに考えていた流行語が、他の人にとってみれば豆粒ほどの大きさでしかないことも多くある。つまりは、ことばは人それぞれの大きさそのものかも知れない。

そこで、『現代用語』がこれまでの四〇年の間、収録から、各界の人々に自分自身の大きさと同じ大きさと考え、それにもつわるエピソードを紹介してもらった。各人各様の解釈による四〇年の集大成と言えるかもしれない。

してきたことばの中から、  
ことばを取出し、



# 世相 グラフィティ 40年

……ことばの窓から見た時代の風景

サフリーマンの40年 — 青木雨彦

便利の40年 — 永六輔

女の元気40年 — 林真理子

財布の40年 — 藤本義一

笑いの40年 — 嵐山光三郎

女と男の40年 — 吉行淳之介

若者の40年 — 川本三郎

政治ゴピの40年 — 赤瀬川原平

おいしさの40年 — 雁屋哲

アメリカとの40年 — 筑紫哲也

シンドロームの40年 — 別役実

主婦の40年 — 山田太一

商売の40年 — 神原昭二

いつか来た道の40年 — 野坂昭如

おしゃれの40年 — 橋本治

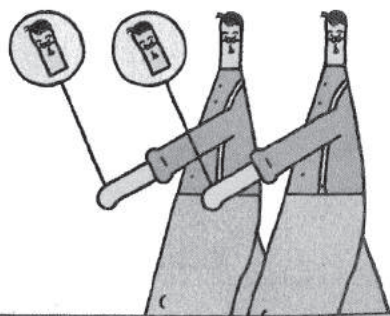
フーズク・欲望の40年 — 赤塚行雄

人気キャラクターの40年 — 泉麻人

知識の40年 — 久野収

宰相の40年 — 扇谷正造

〔付〕  
戦後世相語  
年表・神原昭二



イラストレーション……桑原伸之  
デザイン……岸顯樹郎

# 女の元氣40年

林真理子・作家

## 男に好かれるかどうが、女にとってそれは宗教でさえある

- 女選良——昭和21年
- 三十娘——28年
- 才女時代——32年
- キャリアアガール——34年
- 女子学生亡国論——36年
- ノーブラ運動——45年
- 中じ連——50年
- 翔んでる女——52年
- ぶりっ子、ハチの一刺し——56年
- ルンルン——57年
- シングルズ、別人18号——59年
- お嬢さま、おニヤン子——61年

早いもので、私が『ルンルンを買って  
おうちに帰ろう』というエッセイを書い  
て、はや五年になる。このすぐ後で、私  
は『花より結婚きびダンゴ』という本も  
出版し、かなり物議をかもしたと思う。

これらの本を要約すると、  
「男と張り合って仕事をして、なんの  
楽しいことがあるわけ？ やっぱり女の  
幸福は、好きな男と結婚して、子どもを  
生むことじゃないかしらん」

という、きわめて単純、かつ古典的な  
ものだった。これがウーマン・リブの崩  
壊、それに続くキャリアウーマン・プー  
ムの中でふと疑問を感じた女性、息切れ  
した女性たちにうけた。ほほ時を同じく  
して、『結婚潮流』などという怪しげな  
結婚紹介の雑誌も話題を呼び、この頃か

ら、あつけらかんとした女の本音が声高  
に語られることになる。

私の本は、女性の変遷の、ある種のエ  
アポケットに、すっぽりうまくはまった  
ようなのだ。

だが、今考えても不思議なのであるが、  
私の本、私の存在というのは、男性たち  
に大変な反発を呼んだ。「女は結婚した  
方がいい」という、男寄りの思想は、男  
たちによって拒否されたのである。これ  
は私の計算違いといってもいい。

『ルンルン——』を非難するある評の中  
に、「若者がフェミニズムの影響を、微  
塵も受けていないことに驚かされる」  
とか、

「今まで女性たちが積み重ねてきたもの  
を、片足で蹴とはして笑っているような

本

というようなものが多かった。そのた  
びに、私は、「フェミニズムの影響とい  
ったって、あんなもん一冊も読んでない  
んだから、仕方ないじゃん」と嘘ぶいた  
ものであるが、確かにそうだった。そう  
したものの洗礼を受けるには、私はあま



りにも無知で、怠惰だったのである。

アメリカから始まったウーマン・リブ、  
女性解放運動は、日本においてインテリ  
女性たちにもはやされ、やがて奇矯な  
鬼つ子をいくつか生み出す。そのひとつ  
が「中じ連」だった。

覆美沙子さんという、勇ましい女性が

率いるグループは、たとえば愛人がいる男性をつるし上げたり、その男性の会社の前でビケを張ったりと、世の中を驚かせた。あの時の、揶揄と軽い不快さをこめた世の中の対応を、私はよく覚えてる。つまり、

「女性解放運動なんかしても、なんの得にもならない。だいたい男に好かれたい」という考え方は、当時女子大生だった私たち世代の女の、骨身にしみたのである。私はつくづく思うのであるが、この、男に好かれるかどうかというのは、日本の女にとっては、もはや宗教である。

アメリカの女たちのいさぎよさに比べ、その後の日本の女たちの行動には、いつもおっかなびつきがつきまとう。たとえば、世に氾濫する女性雑誌を見てもわかるだろう。

「仕事ができる女、頭が切れる女」という条件がいくつか並んだあとに、「けれども可愛らしくて、セクシーでなくてはなりません」という項が必ず入る。わが国の女の歴史は、今もなお胎動を続けているが、「男に愛される女」という信念が毅然として存在していることに、私は驚かされ、なおかつ微笑を禁じ得ない。

女子大生やOLたちは、ますます愛らしく、美しくなり、お嬢さまブームが必然的に起こった。育ちが良く、しとやかに、生まれながらにしてさまたまなものを身につけている女性というのは、究極

の「男に愛される女」なのだ。また、愛されることの別の要因に「幼さ」もあることに、女たちは気づく。テレビでは「おニャン子」といわれる少女たちが登場する。もちろん、その一方で、真摯に仕事をとらえ、聡明に生きようとする女性たちがいることも事実だ。男より女の方がはるかに優秀であるという言葉を、私は企業の人事担当の人から何度も聞いた。

しかし彼女たちにしても、あと何年後かにはさまたまなジレンマに悩むに違いない。孤独でいることの不安、子どもを育てたいという欲求、それらを彼女たちがどう乗り越えていくかも見ていきたいと思う。

それにしても、この国の女たちの元気なことと云ったらどうだろうか。最近、ある男性の作家がいみじくも言った。「若くてきれいな女にはかなわない」

この言葉はいみじくも、現代の女たちを総括している。かつて女であることは屈辱でありハンディであった。しかし今の女たちにとって女であることはチョイスである。

そして私も彼女たちも、その幸福をもたらししてくれた、過去のたくさんの方に、ついでには何も考えない。女の繁栄の歴史は興味深いことに、積み重ねられていくのではなく、ほとんど突発的だ。だから私たちは借りもなく、前だけを見ていられるのである。

【女選良】婦人代議士のこと。昭和二年四月、戦後初の衆議院議員総選挙で、女性候補八九名のうち三九名が当選。

【三十娘】戦争と戦後の混乱期のため婚期を失したうえ、相応の年ごろの男性の多くが戦死という悪条件が重なり結婚難は社会的な問題となった。

【才女時代】首野綾子、有吉佐和子、山崎豊子など若い女性が文壇のなかで大きな比重を占めるようになった現象をいう。

【キャリアアガル】自分のサラリーで服装を整えたり、本を買ったり、映画をみたりできる女性。CGと略す。

【女子学生亡国論】暉峻康隆早大教授が「私立大学の文学部は女子学生に占領されて、いまや花嫁学校化している」と発言したことから、女子学生亡国論や亡国論が花さかりとなって、賛否あい半ばした。

【ノーブラ運動】男性との真の平等をはかるために、ブラジャーをはずそうという、アメリカ女性のなかではじまったウーマン・リブ運動の一つ。

【中ビ連】「妊娠中絶禁止法に反対しビル解禁を要求する女性解放連合」の略称。昭和四七年六月結成。ビルは女性が飲む経口避妊薬だが、わが国では副作用を理由に許可されていなかった。中ビ連はビル解禁を求めることが通じて女性解放運動を進

めようというものだが、それまでの婦人運動にくらべ、アイデアを生かした鋭い直接行動が特徴で、「女性の敵」追求で存在をきわ立たせた。

【翔んでる】カッコイイ、こえてる、という程の意味。

【ぶりっ子】カワイ子ちゃんぶるとか、しとやかぶるタイプを称する若者語。

【ハチの一刻し】ロッキード裁判の被告・榎本敏夫の前夫人・榎本三恵子が、公判に検察側証人として登場、田中角栄の五億円受領を裏づける衝撃的な新事実を暴露して世間をアツといわせた。同日夜、記者会見にさっそうと姿をあらわした三恵子前夫人は「ハチは一度刺したら死ぬといいますが、私も同じ気持ちです」。

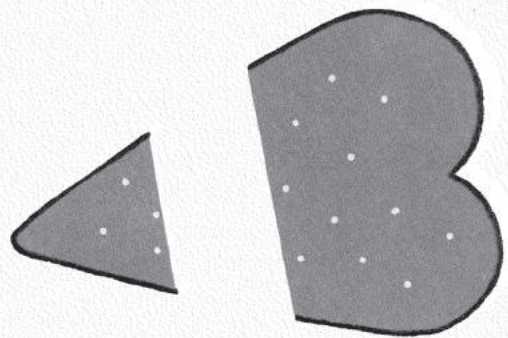
【ルンルン】若い女の子のこと。気分が浮き立つようなときに使う。「今日は」のかわりにも使う。

【シングルズ】単身世帯。国勢調査によると、今日の日本では五世帯に一世帯が「ひとり暮らし」のシングルズ世帯となっている。このところキャリア・ウーマンをめざす結婚しない女たちもどんどん増えてきている。

【別人18号】退社時間の一八時になると別人のようになって夜の街へ消えていくOL。

【お嬢様】街角に立つてお嬢さまア」とになると、人波の中の

若い女性のほとんどがふりかえる——ことほど左様にお嬢さまブームが社会的ムードになっている。きつかけとなったのは、芦屋令嬢の誘拐事件。これに女性週刊誌の浩宮の皇孫妃さがしと来日したイギリスのダイアナ妃の人氣がブームをおおった。【おニャン子】クラスメイトのような親しみと愛らしさで、男の子達を魅了したおニャン子クラブであった。女子大生・おニャン子へ、という流れは、さらに低年齢美少女へと移りつつあることも見のがせない。



## 笑いの40年

嵐山光三郎 ●エッセイスト

- アジャパー、ギョツ——昭和24年  
 サイザンス、むちやくちやでござりまするがな——28年  
 カックン——34年  
 シエー——40年  
 アツと驚くタメゴロー、はつぱふみふみ——44年  
 オヨヨ——51年  
 ナンチャツテ——53年  
 それなりに——55年  
 なめんなよ——56年  
 ネクラ・ネアカ、ほとんどビョーキ——57年  
 いいとも——58年  
 ちやつ、ふいちやつ、ふい——59年  
 アホちやいまんねん、パーでんねん——60年  
 ぶつつん——61年

「アジャパー」の笑いのなかに  
虚脱感と安堵感が同居していた…

なんといっても、アジャパーである。  
 ぼくは、この、アジャパー映画を、東京三鷹のシヨンベン劇場で観た。便所の消毒液の臭いが全館まんべんなく漂う映画館で、岡っ引き役になったバンジュン（伴淳三郎）が犯人を取り逃して、へなへたと倒れながら、

「アジャ、パー」  
 と言うのであった。アジャ、で一呼吸おいてから、風船の空気がもれるような頼りなげで、パー、と言うのであった。その、アジャとパーの間あいが絶妙だった。ぼくは、軀（かみ）をひきつらせて笑った。笑いのなかに、虚脱感と安堵感が同居していた。あの、微妙な間合いのなかに時代の気分が潜んでいた。

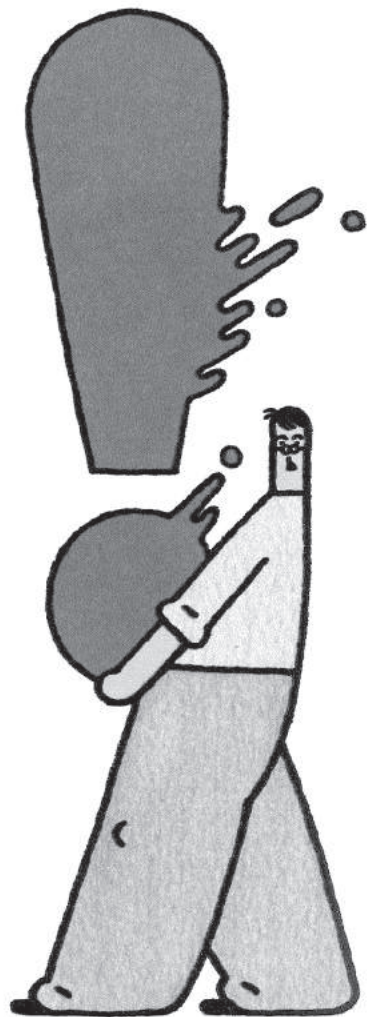
映画を見たのは昭和二五年、ぼくは小学校三年だった。母に連れていってもらったのだが、二本立てのもう一本はエノケンだったと思う。ちやかちやか動き廻るエノケンの映画より、アジャパーのバンジュンのほうがずっと新鮮に思えた。ぼくが東京へ越してきたのは、昭和二四年で、その前は藤沢だった。いたるところが焼け跡だった。焼け跡にリンゴの唄が流れていた。リンゴという果物を食べたことも見たこともないのに、リンゴの唄を歌っていた。焼け跡に、マンマルの太陽が熟れたトマトみたいな感じで沈んでいった。赤トンボが飛びかい、赤トンボの群れをかきわけかきわけて紙芝居屋がやってきた。娯楽は紙芝居だけであ

った。塩辛声はりあげる紙芝居屋は、大のバッチのついた偽トイダイ生であったが、この紙芝居屋は恐怖マンガとギャグマンガを上演した。

アジャパーが出てきたのは、二四年にバンジュンが浅草の軽喜劇に使いはじめからというから、ちょうど、ぼくの家が東京へ越してきた年である。アジャパーは、アレマアアというほどの感嘆詞で、なにか失敗したときに、アアア、という感じで使われた。二四年は、街にはバンバンがあふれ、浮浪児がたむろし、進駐軍がジープで埃まいて走り廻っていた。敗戦直後のショックが虚脱感に変わりつつあった。

敗戦意識がそのまま、アジャパー、という語感にこめられていた。戦争に負けちゃったよ、アジャパー、というニュアンスだ。戦争に負けたことをストレートに悲しむのではなくて、ギャグとして自嘲的に揶揄するこの時代の気分が、アジャパーというやるせない感嘆詞のなかにこめられていた。

アジャパー、という、無意味の意味、ナンセンスのセンスが、このギャグの命である。こういった、一見なげやりで自嘲的、挑発的なギャグ流行語は、二八年のトニー谷の、「ざんす、ざんす、ざんす」にひきつがれていく。「レディース、アンド・セントルメン、おとつあんアンドおつかさん」「家庭の事情でサイザンス」「バックカじゃなかるか」。



トニー谷はアメリカ化した超軽薄体ギャグで世間を挑発しまくった。「ネチヨリンコンとはべれけれ」。

アジャパーが流行した二四年には、ギョツというギャグも流行した。NHKラジオ「陽気な喫茶店」で内海トツバが使ったもので、これもびっくりした感情を表わした感嘆詞であった。ギョツ、あるいはギョギョギョツといういいかたはいいまなら、ズキツであろうが、語感を前面に出したナンセンスのセンスは、アジャパーと同じである。ただし、ギョツというギャグはアジャパーに対しはるかに健康的である。ギャグとして悪意がない。いかにNHKから発信された無害ギャグという感じがある。それに対し、浅草の舞台から流行したアジャパーは、性格に影がある。ひねくれて無気力で、悪意に

満ち、どこか卑猥で、落伍者の気分がある。人を下からすくいあげて見て値ぶみするような視線がある。したたかで、しぶとく生き残るパワーがある。大スターが、どこか欠落した部分を持っていることと共通している。

昭和二四年は、このしたたかなアジャパーと健全なギョツがギャグとしてつばぜりあいしながら共存した時代であったのだ。小学校二年のぼくは東京へ出てきて、生まれて初めて白いパンを食べ、コッパンのうまさを知った。黒いパサパサの玄米パンしか食べたことがなかったぼくは、世の中には、こんなにもいいパンがあるのかと感激した。

このアジャパーのしぶとさにくらべると、それ以降流行したギャグはいずれも力不足である。しかし、それはギャグじ

しんの力不足ではなくて、ギャグがはびこる世相がなまぬるくなったためである。ギャグは、時代の副作用なのであるから、その後経済大国へ発展しつつある

日本では、アジャパーのような悲しくもあざといギャグは生まれようがないのである。

【アジャパー】「あれまあ」という感嘆詞。昭和二四年、伴淳三郎が浅草の軽喜劇で使って流行した。

【ギョツ】昭和二四年四月から始まったNHKの番組『陽気な喫茶店』で、主演者の内海突破がギャグとして言いはじめたことば。驚き、感嘆を大げさに一言で表現。戦後の空気にピッタリはまって大流行した。

【サイザンス】「そうです」という意味で、東京の女性語「ザーマス」をくっつくずしたものだ。民放ラジオのブームにのったトニー谷の新造語、いわゆるトニーイングリッシュの代表語。

【むちゃくちやで】ざりますがな。エンタツと組んで戦前の漫才界をリードしていた花菱アチャコがラジオ・ドラマで人々を笑わせたセリフ。そんな、あんな、むちゃくちやでござりまするがな……がはやり、会話のなかでさかんに使われた。

【カクタン】テレビコメディで脱線トリオが流行させたセリフで、「本当にどうしたらよいのかしら、カクタンとききちゃら

ね」「へエ、あれが夫婦だつてさ、カクタンとききちゃうねなど、独得のニュアンスのあることばとしてよろこばれた。

【シエー】左手で頭をかかえ、右足をビヨコンと曲げて「シエー」と発する。赤塚不二夫の人氣マンガ『おそ松くん』に登場するイヤミ氏の得意のポーズ。

【アツと驚くタメゴロー】テレビ番組『巨泉・前武ゲバゲバ90分』で、ハナ肇が言いはじめた流行語。必ずしも言ってる本人が驚かなくても結構、なんでもタメゴローさんに驚かせておけば、自分に責任がない感じがウケた、という解説もあった。

【オヨヨ】意外や、という時の感嘆詞。流行源はテレビのパンチDEデートの司会者桂三枝。【それなりに】樹木希林と岸本加代子のテレビCMのセリフ「お見合い写真だから美しく」というブス娘の注文に「フジカラ一でしたら美しい人はより美しく、そうでない人はそれなりに……とあしらうセリフから流行語となった。

【なめんなよ】セラー服やガクランを着た猫のパロディ写真

ポスター「全日本暴猫連合なめんなよ」が発売され、幼児ばかりでなく、OLや学生層にも人氣を呼び、全国的なブームとなった。「猫だからって馬鹿にするなよ」の意味。

【ナンチャッテ】国電や小田急の車内で「ナンチャッテ」と人を笑わす四〇男がいるという話を深夜放送が流したら、次々と目撃者が現われ、レコード会社まで悪のりして、『ナンチャッテ・ブルース』を発売する騒ぎになった。

【ネクラ／ネアカ】根暗、うわべは陽気だが本質は暗いこと。根明はその反対。流行の仕掛け人はタモリ。ネクラ・ネアカで人間を暴力的にぶった切るところが人氣の根源か。

【ほとんどのキョーキ】「ついていけない」「よくやる」という感じのことば。テレビ朝日『トゥナイト』の性風俗レポーター役の山本晋也監督が言い出した。

【いいとも】承諾。オーケー。フジテレビの「笑っていいとも」のコナーで、出演依頼されたゲストが了解の意味で用いるのを応用。

# 女と男の40年

吉行淳之介・作家

## 生身の女とつき合いはじめて 私が会うのは、強い女ばかりである

一時、あまりに有名で陳腐なくらいだった言葉に、「戦後強くなったものは靴下と女だ」というのがあった。

しかし、この二つの強くなり方は、根本的に違う。

靴下はナイロンの発明によって、それまでの絹のストッキングより格段に強くもなったし、安くもなった。三〇年前の絹の靴下は、今の物価に直せば一万五〇〇〇円くらい(当時、八〇〇円)。ナイロンの靴下は、今は上等なものでも五〇〇円、はるかに長もちする。たいそう便利で立派な発明である。

なぜ、三〇年前の靴下の値段をおぼえているのか。バーでホステスと戯れている、あやまってその女の絹のストッキングに結び目をつくった。この女は気っ風が良くて、カネにも不自由していない鷹

揚な女のはずだったのだが、途方に暮れるくらい凄まじく怒った。

結局、甚だしくカネに不自由していた私が、一〇〇〇円札一枚出して弁償することにして、ようやく許してもらえた。ナイロン製品が出まわる前から女は強かったのだ。

一方、「女の強さ」は発明品ではない。この場合は、「女権拡張」の思想が実現したためだが、敗戦で封建制が取り払われて、たちまちのうちに強くなった。この思想の中身については、触れない。肝心なことは、私が生身の女とつき合いはじめたのはほぼ戦後なので、以来四三年のあいだ、会うのは強い女ばかりということである。それに「男女同権」「ウーマン・リブ」、そしてこのごろは「フェミニズム」(私はそう思っていたが、この事典

- フェミニズム——昭和23年
- 婦人の日——24年
- 主婦論争——30年
- ウーマンリブ——45年
- 国際婦人年——48年
- 女性大使——51年
- 日本女性党——52年
- 女性学——54年
- 女子差別撤廃条約——60年
- 男女雇用機会均等法——61年

には昭和二三年の創刊号のときから、この項目があること、つぎつぎとそういう思想が強い女を援護してきた。

「強い靴下」の発明はみんなを喜ばせたが、「強い女」の出現はどうかと言えば、男たちはどうやらかなり閉口しているようだ。そしてあらためて、この「強さ」について考えてみると、輸入されてきた思想によるものだけではないようである。

たとえば、絹の靴下に結び目の出来た女性、なぜあれほどまでに怒り狂ったか。女にとって、衣装とか化粧は肉体の一部なのだろうか。

そして、それは長く続いた男性上位の社会においての習慣によって身についたものなのか、それとも女の本質に深く関



わるものなのか。男がけっして出産できないことと同じくらいに、根元的なものなのかどうか。当然例外はあるが、男の肉体は大きくてゴツゴツしている。女は小さくて柔らかい。そういう根元的なものが、化粧と衣装に深くつながっているような気がする。

行く、「近くに喫茶室ができたから行ってみよう。前に一度行ってみたいけど、美人のウェイトレスがいる」と言う。二人で出かけると、小さな部屋に一応美人の女が一人だけいてあと誰もない。コーヒを注文すると奥のほうから運んでくる。

倒れた。相手は呆れて、それ以上の被害はなかった。友人も無抵抗だったが、唇がかなり腫れるくらい殴られた。あの目つきがいけなかったらしい。

ここで思い出すのは、昭和二五年のことである。

友人はあまり感心できない目つきで、その女をチラチラ見ていたが、「きみ、どういう人」

さて、その女の立場はどういうものだったのだろう。女王様として男たちに命令したのか、あるいはボス格の男の恋人として男たちを動員するように唆したのか。女王になるのを、一見女は好んでいるようだが、じつは経済的にも肉体的にも強い男の庇護下にあつて華やくのをつそう好むのではないか。

獅子文六『自由学校』の中で、妻が夫に向かって、「出て行け」と言った。これまで、このセリフは男の口からしか出なかったもので、大評判になった。これは封建制が堅固だった証拠と言える。

「いまに分かるわよ」それ以上の会話がなかったので、勘定して外へ出ると、私たちより若い男二、三人に取り囲まれた。金持ちの息子たちで、ヤクザを気取っているようだ。私はもともと弱いし、こういうときは弱いにがざると思っている、相手の拳固が頬をかすめただけで、五メートルほど飛んで

もし、そうだとすれば、「どういう人」と問われて自分について考えたとき、その形が最上位にきたことになる。それは、繰り返すが、男が出産できないのと同じくらいに根元的なものだろうか。もしそうだとしたら、今の女の強さの大きな部分は、自分で自分の首を縮めている

ことになるが、そこらあたり私にはわからない。最後に疑問を一つ。古今東西、しかるべき哲学者と作曲家には女性は一人もいないが、これはどうしたわけか。ここが解明できると、男と女の本質の違いがわかってくるかもしれない。

同じ昭和二五年、中学時代から戦後の闇市の時代まで因縁の深かった友人が、湘南の葉山に部屋を借りた。会社の近くなので、その場所を選んだ。そこに遊び

「いまに分かるわよ」それ以上の会話がなかったので、勘定して外へ出ると、私たちより若い男二、三人に取り囲まれた。金持ちの息子たちで、ヤクザを気取っているようだ。私はもともと弱いし、こういうときは弱いにがざると思っている、相手の拳固が頬をかすめただけで、五メートルほど飛んで

もし、そうだとすれば、「どういう人」と問われて自分について考えたとき、その形が最上位にきたことになる。それは、繰り返すが、男が出産できないのと同じくらいに根元的なものだろうか。もしそうだとしたら、今の女の強さの大きな部分は、自分で自分の首を縮めている

ことになるが、そこらあたり私にはわからない。最後に疑問を一つ。古今東西、しかるべき哲学者と作曲家には女性は一人もいないが、これはどうしたわけか。ここが解明できると、男と女の本質の違いがわかってくるかもしれない。

【フェミニズム】いわゆる「女権拡張論」であり、社会各部分における男性の女性に対する圧迫に反対し、政治上経済上、社会上の男女の差別待遇を撤廃し、男女の同権を獲得せんとする運動。封建社会の没落、資本主義社会の成立発展とともに興起し、選挙権の獲得、財産の所有権、教育就職などの機会均等、母性保護、廃娼等の運動として行われた。フェミニストという

と女権拡張論者、女性尊重論者【婦人の日】国民祝日の中には婦人の日が含まれていないが、四月一日をその日とし、それを中心に一週間婦人週間をもうける。昭和二年四月一日は全国の婦人が選挙権をはじめて行使した日であるから、この日を婦人の日として啓蒙運動を徹底しようとの意なのである。

【主婦論争】主婦のアイデンティティーをめぐる論争。論争の口火は、石垣綾子「主婦」という第二職業論（『婦人公論』）であった。

【ウーマン・リブ】女性自身の手による女性解放運動。アメリカを中心に一九六〇年代から各国で盛んになった。性別による差別の撤廃、女性が指導的地位につく可能性を増大すること、雇用の機会均等を主張。日本では昭和四五年ごろから現われ

はじめた。【国際婦人年】一九七二年一月、国連総会は満場一致で七五年を国際婦人の年とすることを決議した。国内および国際レベルにおいて、経済的、社会的および文化的問題に、婦人が一層参加することを目的の一つにかけ、全世界に男女平等の問題を注目させるため制定された。

【女性大使】一九七五年の「国際婦人年」を機に、女性の国際分野への進出を促進しようという見地から、三木首相の意向を受けて、七六年一月にわが国で初めて誕生した女性大使。ただし実際には国連代表部「公使」である。国際基督教大学教授の緒方貞子氏が任命された。

【日本女性党】中ビ連の榎美沙子を党主に、昭和五二年七月の参議院選挙に向けて結成された。しかし党綱領が「内閣は全員女性とする」「国家公務員は全

員女性とし男性はアルバイトのみとする」などまったく実行不可能なもので、一〇名の立候補者の知名度もなく、全員落選、こごとく供託金没収となった。

【女性学】男性支配である既成の学問分野を女性の立場で総合的に女性の地位、問題を見なおしていこうとするプログラムという。昭和五四年六月、日本女性学会が誕生した。

【女性学】男性支配である既成の学問分野を女性の立場で総合的に女性の地位、問題を見なおしていこうとするプログラムという。昭和五四年六月、日本女性学会が誕生した。

【女性学】男性支配である既成の学問分野を女性の立場で総合的に女性の地位、問題を見なおしていこうとするプログラムという。昭和五四年六月、日本女性学会が誕生した。

【女性学】男性支配である既成の学問分野を女性の立場で総合的に女性の地位、問題を見なおしていこうとするプログラムという。昭和五四年六月、日本女性学会が誕生した。

【女性学】男性支配である既成の学問分野を女性の立場で総合的に女性の地位、問題を見なおしていこうとするプログラムという。昭和五四年六月、日本女性学会が誕生した。

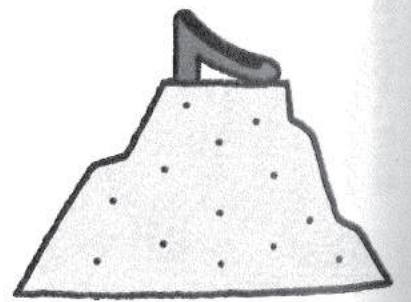
【女性学】男性支配である既成の学問分野を女性の立場で総合的に女性の地位、問題を見なおしていこうとするプログラムという。昭和五四年六月、日本女性学会が誕生した。

【女性学】男性支配である既成の学問分野を女性の立場で総合的に女性の地位、問題を見なおしていこうとするプログラムという。昭和五四年六月、日本女性学会が誕生した。

【女性学】男性支配である既成の学問分野を女性の立場で総合的に女性の地位、問題を見なおしていこうとするプログラムという。昭和五四年六月、日本女性学会が誕生した。

【女性学】男性支配である既成の学問分野を女性の立場で総合的に女性の地位、問題を見なおしていこうとするプログラムという。昭和五四年六月、日本女性学会が誕生した。

【女性学】男性支配である既成の学問分野を女性の立場で総合的に女性の地位、問題を見なおしていこうとするプログラムという。昭和五四年六月、日本女性学会が誕生した。





# 政党関係用語の解説

福岡政行「ふくおかまさゆき」……駒沢大学助教授

## 88年の最新語

### ◆新総裁中曽根調整

自民党総裁選挙は、昭和六二年一月二〇日〇時過ぎに、中曽根康弘総裁が幹事長・竹下登を第一二代総裁に指名することで内定した。総裁選挙の動きは、告示当初、話し合い選出を主張する安倍、宮沢の二者と、選挙選出を主張する竹下との対立をみた。しかし、一五日夜に首相公邸に中曽根訪問をして以降、竹下は話し合い選出に対して理解を示した。三者会談は、話し合い選出の合意で誰を新総裁とするかで折衝が進められた。特に新三派連合は、竹下、安倍のいずれが統一候補となるかで河本を入れての三者協議が何度か進められたが、候補一本化をみることはなかった。

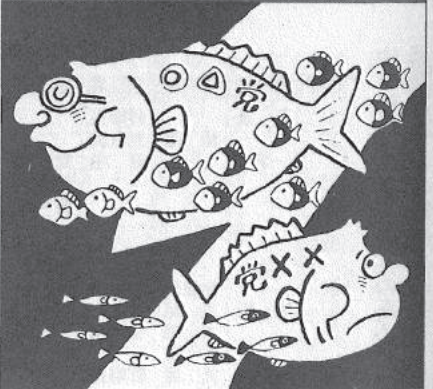
投票日前日の一九日には、三者会談のほか安竹協議も進められたが、夜になっても合意は得られなかった。三者は、遂に一分の望みを託して中曽根総裁に「白紙一任」による新総裁の選出を申し出た。いわゆる「中曽根調整」である。中曽根は、党最高顧問から意見を聴取した後、裁定文を書いて竹下指名を発表した。中曽根は、調整にあたって「挙党体制の確立」を党最大派閥の竹下指名の理由とした。

### ◆経世会

昭和六二年七月四日の田中派分裂によって出来た竹下登を中心とした自民党内最大派閥の正式名称。設立総会には、一三人の衆参国会議員が出席し結成大会が行われた。六〇年二月に竹下は、田中派内に勉強会として創政会を充足

させ、次期リーダーとしての地歩を固めようとした。田中元首相は創政会発足後間もなく脳卒中で入院し、領袖なき派閥として田中派は、二階堂進を会長として派の運営を続けた。田中派は、四六年に田中内閣を発足させた後は、総理大臣候補を持たない派閥として、他派閥の領袖を担いで政局を影から運営してきた（「田中支配」）。

しかし、派内には若手・側近グループを中心として、総裁候補を擁立することを主張し、六二年に入ってから「ポスト中曽根」をめぐる竹下擁立グループの動きが活発化した。二階堂進会長は、主導権を握るべく、総裁選挙出馬を五月に表明し田中派は二極分裂が深刻化した。



●中曽根第三次内閣は昭和62年10月末日に任期切れ、新内閣へと移行した。62年春の売上税選挙以降は、日本の政治はポスト中曽根をめぐる自民党の動きに左右された。5月の二階堂ショックは政局を一段と緊張させ、7月の竹下派結成が前半戦の大きな山場となった。

●その後、新政権を目指しての各派の合従連衡への動きが活発化するとともに、国民に理解を求めために各派とも基本政策の発表が行われた。

●一方、野党陣営は81年衆参同日選挙での自民党大勝を受けて、社公民路線の再構築を図り始めた。特に社会党と民社党は、歴史的和解も相上り上ってきた。

たつて派内一本化を目指したのが失敗し、七月四日に竹下派結成をみて、分裂が確定した。竹下派は、旧田中派（一四一名）の大部分を糾合し、分裂後も党内最大派閥の地位を確保している。「経世会」は、竹下が一〇〇年にわたって使われる名前として命名した。由来は、「経世済民」（世を治め、人民の苦しみを救う）による。

### ◆安竹連合

自民党有力議員の竹下登と、安倍晋太郎の個人的友好を軸に、二派閥の連携によって政権を獲得しようとする政略。「ポスト中曽根」をめぐる派閥間の動きから、昭和五九年総裁選挙時からいわれるようになった。竹下と安倍は大正一三年生まれであり、また初当選も昭和三三年総選挙であったことから、両者は以前から

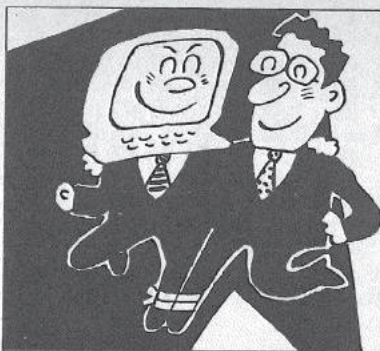
個人的に親交を深めていた。六二年の総裁選をめぐる個人的関係を派閥間にまで広げた。当初は、安倍派と田中派で党国会議員の過半数（二二四名）を確保できることを意図していたが、二階堂ショック（別項）による田中派の分裂によって「安竹プラス一派閥」によって過半数を超えるという政略に変更された。

### ◆新三派連合

また、田中派分裂前は、竹下が田中派の結束を守り禪譲となるまで、安倍政権が先行といわれていた。しかし、六二年七月に新派閥竹下派が結成されたことから、竹下、安倍のどちらが先に政権を担当するかが不透明となった。両派は、河本派（二二名）の取り込みによって雌雄を決するため画策した。

を言明し、中曽根派、宮沢派に大きな影響を与えた。しかし、同時に安倍・宮沢密談（八月下旬）もあり、安倍急浮上論にも繋がった。

自民党竹下、安倍、河本三派による政権主流派。昭和六二年七月に竹下派が田中派（一四一名）より分裂誕生したことから連携が始まった。田中派分裂までは、自民党議員四四六人の過半数を「田中派プラス一派閥」によって制することができると、安竹連合（二二七名）による政権が意図された。しかし、田中派の分裂によって竹下派が一三一人となったため、安竹連合（一九九名）だけでは、過半数を制することが出来ず「安竹プラス一派閥」による政権へと構想が変化した。河本派（三



# ニュービジネス 産業用語の解説

平林千春「ひらばやしちはる」……「コミュニケーション・システム研究所所長」



●さまざまなニュービジネスの登場というのは、今日の産業構造の転換に起因する。ビジネスの形態・様式がどのように変わりつつあるかを解明することが、ニュービジネス理解の前提となる。

●そうした視角から今日の「ニュービジネス状況」を解明することをまず意図した。その中でどのような徴候が現れているかを、いくつかの具体的視点の提示の中から浮かび上がらせてみた。

●ニュービジネスを産業や経済の一部分として取り上げるのではなく、社会体制や産業構造の転換の中での必然的な現象としてどう受け入れていくか、それが今日のビジネスセンスの中軸になると言ってもよい。

## 新しい市場化への流れ

ニュービジネスを生む最大の要因は、市場構造の転換である。旧来の産業・ビジネス形態ではもはや変わりゆく人々の生活行動をとら

えられない。そこに従来の市場とは違った新しい市場がいき、また人々の行動の革新を誘導していく。新しい世代、新しいライフスタイル、新しい生活ニーズ、新しいシーズの登場などがニュービジネスを作り出してゆく。

## ◆実年

高齢化社会の中軸を成すと思われるシルバー予備軍。五〇〜六五歳ぐらいの人生の頂点を極めた人と言う。この層は所得もあり、消費力も旺盛である。そして、苦勞をしてきただけに商品への鑑別力もある。カラオケ、ジョギングなどのブームの火付け役でもあった。とくに女性層の人生エンジョイ派は今後のニュービジネスの争点になりそう。

### ◆有職主婦

現在三五歳〜四五歳の主婦の七〇％近くは、すでに職業に就いている。子育てが終わり、人生に再復帰した彼女らは、活発に社会にかかわろうとする。職を持ち、カルチャースクールに通う。そして自らの行動を支える新しいビジネスを求め、持ち帰り弁当、家事代行業、宅配便などの主要

ユーザーは有職主婦である。彼女らの行動をとらえることが新しいビジネス・チャンス開拓の突破口となる。

### ◆キッズ・ビジネス

大人が知らないヒット商品となったロッテの「ビックリマンチョコ」。この事実には子供の情報コントロール能力の進化をうかがわせる。昭和ファイティズと言われる小学生以下が新しい風俗を作る。ファミコン、アニメ、ハンバーガーなど新たな生活感覚を持つ子供たちが育てるビジネスは、母親の社会進出と相まって、新たな有望市場となっていくだろう。

### ◆日本型ヤッピー

猛烈に働き、消費し、よく遊ぶ。アメリカのヤッピーに似た高学歴、高感度の消費者群が日本の市場をひそかに変え

つつある。年収五〇〇〜七〇〇万円、未婚者、学生、自由業に多い。彼らは最先端の風俗を見つけ、その中に新しい都市ライフスタイルを見い出す。代官山、芝浦のウォータフロントなどはその典型。ディングクス(別項)と呼ばれる若夫婦も注目的。

### ◆教育ビジネス

教育関連の市場は今や都市生活にとっては無視できない。かつてのエンゲル係数に代わってスク・ジユク係数(スクールと塾)が家計の中心になっている。高学歴化の背景を受けて、この傾向は益々進み、今や教育産業は三〇兆円にも達する。今後ニューメディアやCAI(コンピュータ支援教育)の浸透で、進学教育から生涯教育まで多様な教育ニーズを支えていくことが予想

される。

### ◆ライフケア・ビジネス

アメリカでは自分の健康管理ができない人はそれだけでビジネスマンとして失格だという。日本でも治療だけではなく予防を目的とした新健康ビジネスが勃興しつつある。各種調査によっても人々の願望のトップは健康である。「健康になれるんだつたら死んでもいい」というくらいの熱狂的な健康ブームは今後高齢化の進行の中でますます活性化してくる。それも単なる身体上の健康から精神の健康まで含めたトータルなライフケアに発展していく。それには従来の盲目的な健康一辺倒からバランスのとれた心身の健康が重視され、医療だけでなく心理、教育、スポーツなども含めた総合的なライフケア・

### ◆リゾート・ビジネス

現在、日本で最も脚光を浴びているのがリゾート開発である。昭和六二年五月に「総合保養地域整備法」(通称リゾート法)も成立し、官民あげてのリゾート開発が全国各地で繰り広げられている。各自治体が計画している開発計画だけでも一兆二〇〇億円に達すると言われている。とくにマリン・レジャーやウインター・スポーツを軸とした長期滞在型のリゾート開発が志向されている。

### ◆二四時間化

深夜スーパーやコンビニエンスストア(CVS)などの二四時間ショップはすっかり当り前になった。いつでも開いている店の存在は、消費者に新たな便益を提供している。最

# 現代宗教用語の解説

島蘭進

「しまそのすすむ」

東京大学助教授



●現代の宗教の特長はなにか、と問われたら、「体験」という言葉で答えてみるのも面白いかもしれない。

●昔から人々が信じてきたことだからと言われても、そのまま信じるのは難しい。理屈でこれこれこういうわけだから、と説明されてもすぐに信じる気になれない。しかし、一度、わが身になまなましく体験すれば、そこから強い信念が生まれてくる。

●日常の世界と違う世界に遊びたい。「異文化」「異次元」「異人」——そういう世界に触れれば、みずからも変身できるのではなからうか。体験を求める気持ちの背景には、こんな欲求もあるようだ。

## 88年の最新語

### 小さな神々

戦後の日本の宗教史を特徴づける現象は、いくつもの新宗教教団が驚異的に発展し、巨大組織にまで成長したことであった。ところが一九七〇年頃から、これらの教団の成長が止まり、新しいタイプの中規模教団や、地域的な小集団の

活動が目立つようになってきた。真光(まひかり)系教団、GLA系教団、阿含宗(あごんしゅう)などは前者の例で、新新宗教とよばれている。これに対して、後者を「小さな神々」と総称する用語法が最近、定着しつつある。「小さな神々」という語は、朝日新聞が八四年の元旦から始めた一六回の連載記事「現代の小

さな神々」に由来する。実際には霊能的な宗教家を中心とする小集団が多く、古くから日本社会に存在していたのだが、最近ふえてきているという人もいる。新新宗教が体系的な教えを構築しポスト・モダンを志向しているのに対し、小さな神々は土着の素朴な宗教伝統に立脚しプレ・モダンであるとされる。真理(みち)の友は小さな神々の一例として注目されたが、相当にまとまった教義をもっているようである。また、横浜の大山祇命(ねずのみこと)神示教会は小さな神々が大神団(七〇万人という)に成長したものと

### 反カルト

一九六〇年代の後半からアメリカでは、正統的な西洋の宗教(プロテスタント、カトリ

ック、ユダヤ教)とは相当に異質な宗教運動が、主として若者の間に広まるようになった。それらの中には、東洋の宗教伝統に多くを負っていたり、教祖的な指導者に深く帰依するものが多い。これらの宗教運動を新宗教とよんだりカルトとよんだりしている。代表的なものにハリ・クリシユナ、統一教会(原理運動)、超越的瞑想(T・M)、サイエントロジー、チルドレン・オブ・ゴッドなどがある。これらの教団は一般社会の生活様式を激しく否定し、緊密な共同体的結合を保とうとする。このため一般社会の反発を買うことが少なくない。とくに前途有望な子供がこれらの奇妙な宗教に「洗脳」され、人生を台無しにしてしまったと感じる家族が反カルトの重要

な担い手である。家族の支持の下、「誤った」信仰をたたきこまれた若者を、「正常な」思想にもどそうとするデプログリング(スナッピング)の専門家(デプログラマー)もいる。日本でも新宗教に対する反対運動は明治以来根強いものがあるが、統一教会や山岸会をめぐって家族が起こした運動はアメリカなどの反カルト運動とよく似ている。

### テレビバンジュリスト

現在、アメリカにはテレビを通じて、膨大な数の視聴者に訴えかける人気説教家が数多くいる。聖書にもとづく信仰と悔い改めによる回心を訴えるプロテスタントの説教家を一般にエバンジュリストとよぶので、テレビ説教家のことをテレビバンジュリストとよんでいる。一八世紀の大覚醒以来、アメリカでは情緒的な回心や清めの体験をひきおこそうとする信仰復興運動(リバイバルズム)がくり返されてきた。リバイバルズムの説教家はラジオやテレビのような新しいメディアを見逃しはしなかった。現代アメリカでもっとも名高い説教家ビリー・グラハムも然りである。ところが、一九七〇年代に入るともっぱらテレビを通じて説教を行う説教家が急速に成長し

### 真理(みち)の友

一九八六年一月一日、和歌山市郊外の毛見に教会を置く新宗教教団「真理の友教会」の信者七人が、海岸で焼身自殺した。この教団はもと国鉄職員だった宮本清治(六二歳)が五〇年に創設したもので、約二二〇人のメンバーがいるという。一〇月三十一日に教祖が肝硬変で亡くなった翌日のことだった。自殺した七人の信者のうち、教祖の妻(四二歳)と妻の母(六七歳)を除く五人は若い(二五―三七歳)独身の女性だった。彼女らは、